

# コミュニケーション

No. **94**  
2017.10月号



Contents

- P2・3 園長あいさつ  
〔特集1〕  
**高病原性鳥インフル  
エシザからの再出発**
- P4・5 〔特集2〕  
**国内最高齢の  
ニホシヌワシ  
ちょうかい  
「鳥海」の歴史**
- P6・7 **こんにちは! あかちゃん**  
移動動物/訃報/飼育動物数
- P8・9 **飼育レポート/動物病院から**
- P10・11 **イベントレポート**  
今後のイベント
- P12 **飼育日誌/お客さまの声**  
かたばた通信



## Greeting

### 動物園は笑顔があふ場所

園長 小松 守



ようです。

美大と連携したアートで彩られ、応援会のご支援で実現した音楽イベントなど多様なお楽しみも加わり、大森山は進化し続けているようで本当にありがたく、嬉しく思います。お盆の頃、久しぶりに再会する家族が笑顔で語らう様子などを見て、動物園という場の大切さや存在の大きさを実感、その分だけ責任の重さを考えてしまいました。

今年も夜の動物園が終わりました。昼夜5日間の来園者総数は昨年比20%アップの約2万5千人。お盆時期の秋田の風物詩的な存在になってい

混雑した中で聞こえてきた熟年カップルの会話、「すごいな、たくさんの方が来て」「去年は鳥インフルエンザもあって雪の動物園もなかったし…、久しぶりね」を聞きながら、昨年の初冬に発生した高病原性鳥インフルエンザのことを思い出しました。憩いの場、動物園は「幸せ時間」を過ごす空間でもあります。それは当たり前のようにある安全と安心があつてのことです。開放空間の動物園で鳥インフルの絶対防止は難しいですが、あの教訓を忘れることなく、油断せず、やれることはしっかりやり遂げなければならぬと改めて強く思いました。

鳥インフルから開放された春の開園3日間では約3万人の来園者が訪れました。それは動物園への応援と同時に、大事な場なんだよというサインだったように思えてきます。動物園は笑顔があふ場所なのです。



スバルバルライチョウ(上) コツメカワウソ(下)



穂積市長も見学「あべ弘士原画展」



トークイベント「鳥を語る」(左から田井氏、小宮氏)



大勢の来園者でにぎわう「カビバラの湯こ」



秋田魁新報社寄贈の「オモリン看板」



来園者へお菓子のプレゼント



待ちかねた開園に笑顔の来園者

しや、消毒の徹底を再確認したほか、鳥インフルエンザにより展示できなくなった施設の改修や新たな展示動物の導入なども検討されました。

### 3. 広がる支援の輪

3月18日の開園に向けて準備を進める大森山動物園にさまざまな形で支援の輪が広がりました。

那須どうぶつ王国からはスバルバルライチョウ2羽を無償譲渡いただき、コツメカワウソの搬入に当たっては、計画管理者の海遊館をはじめアドベンチャーワールドと札幌市円山動物園に大変お世話になりました。

また、小松園長の友人である絵本作家・あべ弘士氏のご厚意により、同氏の原画展を3月18日から4月9日まで開催することができました。3月19日には元上野動物園園長・小宮輝之氏と動物写真家・田井基文氏が友情出演し、原画展を記念したトークイベント「鳥を語る」が開催されました。

地元秋田市のホームテック株式会社様からは、カビバラ展示場に給湯設備を寄贈いただき、その設備を活用し「カビバラの湯こ」を開設することができ、来園者からも大好評でした。

秋田魁新報社様からは、開園情報に関

する特集記事を掲載いただき、記事の協賛金を活用して、第4駐車場近くにイベント情報などを掲示できる大きなオモリンの看板も設置することができました。

### 4. 大盛況となった開園3日間

今シーズンの開園初日の3月18日から20日までの3日間は、鳥インフルエンザによる休園のおわびと来園者への感謝の気持ちを込めて入園無料としました。

穂積市長のほか、ネーミングライツパートナーである秋田銀行の湊屋頭取にもご出席いただいた開園セレモニーでは、同銀行からお菓子のプレゼントも用意され、大勢のお客様がいらっしゃいました。開園3日間の入園者は約3万人。大勢のお客様の笑顔にふれ、大森山動物園の開園を心待ちにされていたかたが、こんなにたくさんいたことに職員一同感激しました。

### 5. これからも愛される安全・安心な動物園に

大森山動物園は、秋以降の鳥インフルエンザ発生時期に備え、防鳥ネットの設置や鳥類隔離施設の建設などの対策を行っています。

これからも大森山動物園が安全で安心な動物園として、皆さまに愛されるよう努力してまいります。

企画広報担当 主席主査 吉田 淳一

# 特集1 高病原性鳥インフルエンザからの再出発



3月18日開園日にぎわい

## 1. 鳥インフルエンザの発生と終息

昨年11月15日に園内動物病院で発生した高病原性鳥インフルエンザは、コクチョウやシロフクロウが感染し、大森山動物園がこれまで経験したことがない出来事として大きな影響をもたらしました。

発生日の翌日から動物園は休園となり、1月・2月に開催を予定していた「雪の動物園」も中止しました。

休園中の動物園は、園内の消毒作業を始めとする感染拡大防止の対策に追われました。職員は懸命に再発防止の対応に努め、今年1月7日に環境省による野鳥監視重点区域が解除されたことによ

う安心することができました。

## 2. 再開園に向けて

鳥インフルエンザが終息したことを受け、動物園は今シーズンの開園準備にことりかかりましたが、一度完全に休止してしまつた動物園を再開するのは容易ではありませんでした。園内の防疫体制の見直



## 特集2 国内最高齢のニホンイヌワシ

# 「鳥海」の歴史

飼育展示担当 副参事 三浦 匡哉



今年4月24日、大森山動物園を代表する動物がその生涯を終えました。大森山動物園の歴史そのものといってもいい動物、ニホンイヌワシ、その名を「鳥海」といいました。鳥海のおゆみをご紹介します。

	年齢	出来事	解説
1970 (昭和45)年	0	7月上旬 鳥海山麓で2羽保護。 8月3日 秋田市児童動物園で受け入れ。	①
1973 (昭和48)年	3	9月1日 現在の大森山動物園に引越す。	
1980 (昭和55)年	10	3月20日 2羽の間に初めて卵が生まれたが、無精卵。	②(写真)
1989 (平成 元)年	19	最初のパートナー白滝死亡。 たつ子が次のパートナーとなった。	③
1996 (平成 8)年	26	たつ子は別の雄、青葉とペアを組む。	
1997 (平成 9)年	27	たつ子と再度ペアリング。 青葉から採取した精液でたつ子の人工授精に取り組む。	④
2001 (平成13)年	31	たつ子が多摩動物園から来園した雄、信濃とペアを組む。	
2005 (平成17)年	35	西目が鳥海の3番目のパートナーとなった。	
2009 (平成21)年	39	鳥海×西目ペアで初めて卵が生まれたが、無精卵。	
2010 (平成22)年	40	鳥海×西目ペアで産卵あり。有精と確認され、孵卵器に入れて孵化を待ったが、残念ながら孵化に至らず。	
2012 (平成24)年	42	徐々に衰えが目立ち始め、両眼の視力も落ち始めた。	
2014 (平成26)年	44	右足に力が入らず、飛べなくなり動物病院で余生を送ることになる。	(写真)
2016 (平成28)年	46	11月、大森山動物園内で高病原性鳥インフルエンザが発生	⑤
2017 (平成29)年	47	公益財団法人日本動物愛護協会の日本動物大賞功労動物賞を受賞。 4月21日 朝から体調を崩したため、診療室に移動し、治療を開始。 4月24日 15時38分死亡を確認、安らかな最期であった。	⑥(写真) ⑦

① 鳥海山麓の奈曾渓谷で2羽のイヌワシが地元の人に保護され、2羽はその後、千秋公園にあった秋田市児童動物園に受け入れられました。当時、日本の動物園でのイヌワシ飼育は上野動物園、熊本市動物園のみで手探りの飼育でした。



開園当初のイヌワシ舎で 鳥海(左)と白滝

② 「鳥海」と「白滝」と名付けられた2羽の間に初めて卵が生まれました。残念ながら無精卵でしたが、引き続き自然繁殖を目指しました。一方で鳥海の精液が採取できたため、人工繁殖の可能性も模索しましたが、結果ができませんでした。ただ、調査の

結果、イヌワシの産卵間隔が4日(96時間)、卵を取り上げると補卵性が動き、最大6個産めることがわかりました。

③ 白滝が亡くなり、田沢湖の近くで保護された「たつ子」が次のパートナーになりました。鳥海とたつ子は相性も良く自然繁殖の期待が高まりましたが、5年経っても有精卵が取れませんでした。



2004年8月

④ 鳥海とたつ子で再度ペアリングしましたが、「青葉」から採取した精液でたつ子の人工授精に取り組みました。その結果、翌年有精卵が生まれましたが、残念ながら孵化に至りませんでした。

⑤ 鳥海が暮らす動物病院で11月15日、高病原性鳥インフルエンザが発生しました。鳥海を守るための厳重な管理体制が敷かれ、翼を広げられない環境で1か月ほど管理していたため、筋力の低下や、バランスが取れなくなるなどの悪影響が現れました。そこで、飼育箱から出し様子を見ることにしました。食欲はある程度あったので、代謝改善薬や肝機能薬、ビタミン剤などを餌に混ぜたところ、次第に元気を取り戻していきました。



日本動物大賞功労動物賞授賞式の様子(右:佐々木 祐紀 職員)

⑥ 47歳になった鳥海は、日本国内はもちろん世界的にも最長寿のイヌワシと考えられ、また大森山動物園におけるイヌワシ飼育の礎であること等が評価され、3月22日に公益財団法人日本動物愛護協会から日本動物大賞功労動物賞を授与されました。



2017年3月 動物病院での鳥海

⑦ 朝から姿勢を維持できないなど、体調を崩したため、診療室に移動し治療を開始しましたが、年老いた鳥海の状態を考えると、できることが限られるため、過剰な手当はせずに対症療法を施すことにしました。4月24日15時38分に静かに息を引き取りました。

4月29日から5月14日までビジターセンターに献花台を設けたところ、鳥海を最初に保護していただいた方のご家族をはじめ、多くの来園者からお花や在りし日の写真、メッセージ等をいただきました。

動物病院にいた鳥海は、眼もあまり見えず、飛びこともできませんでしたが、「鳥海さん」と呼びかければ、高い声でピーピー答えてくれ、寝室から屋外のケージまでよちよちと歩く姿が忘れられません。屋外のケージでは、年老いた姿ではありましたが、凜とした姿で多くの人に愛されました。子孫こそ残せませんでした。鳥海はそれ以上に大切なものを大森山動物園にたくさん残してくれました。

「鳥海さん、お疲れ様でした。これからも大森山動物園を見守り続けてくださいね!」



たくさんの人からメッセージやお花が届けられた献花台



こんにちは!

# あかちゃん

1月から7月の間に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。



### フンボルトペンギン

3月1日と4日にフンボルトペンギンが孵化しました。ベテランの両親は子育ても上手で、順調に育ちました。大人のペンギンたちと模様がまだ違うので、是非探してみてください。



### ニホンイヌワシ

3月14日に2年ぶりに孵化しました。飼育下では貴重な野生由来の西目(メス)の子どもです。子育ては上手な信濃(オス)とたつ子(メス)に託して孵化育雛し、5月23日に無事に巣立ちました。

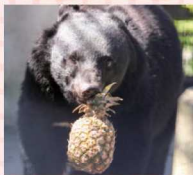
### カピバラ

昨年に引き続き、今年も5月6日に5つ子で生まれました。残念ながら1頭は亡くなりましたが、他の4頭は元気に育っています。大人、昨年生まれの子ども、今年生まれの子どもとそれぞれ大きさの異なるカピバラを探してみてください。



この他、ライオンやタヌキ、ワタボウシタマリン等、久々の出産もありましたが、残念ながら生まれてすぐ亡くなってしまいました。繁殖の大変さについては、この後の飼育レポートで、当園初のプレーリードッグの繁殖と久々のミーアキャットの繁殖をご覧ください。

## 元気でね! 大森山を後にした動物たち



### ツキノワグマ「ルイ」

5年前に大森山で生まれたルイが6月12日に名古屋市東山動物園に嫁入りのため旅立ちました。最後の展示となる10日には「ルイを送る会」を催し、多くの方に来ていただきました。名古屋ではお母さんのルビーのように上手に赤ちゃんを育ててほしいものです。



### ワタボウシタマリン「レオ」

2014年に大森山で生まれたレオ。育児放棄のため、生まれた日から人工で育ちました。大森山では初めてのことで、担当者が一生懸命育てました。群入りを考え、コモンマーモセットと同居させたことで、たくましくなっていきました。名古屋で希少種の繁殖に貢献してね。

この他、ジャンボウサギ、コモンマーモセット、アカカンガルー、カピバラ、アメリカビーバーが他の動物園等に旅立ちました。

## よろしくね!

仲間入りした動物たち

スバルパラライチョウとコツメカワウソ、いずれも大森山では初めての展示です。昨年発生した鳥インフルエンザからの再発を、那須どうぶつ王国をはじめ様々な園等に応援していただきました。詳しくは飼育レポートをご覧ください。



### スバルパラライチョウ



### アカカンガルー

6月7日に盛岡市動物公園とアカカンガルーのオス同士を交換し、メローネとの交換で来園したオスにサイチと名付けました。同居の際は緊張感がありましたが、他のオスの目を盗み、早速メスにちょっかいを出す余裕がありました。色白のナイスガイです。



### コツメカワウソ



### ブラッサグェン

7月14日に名古屋市東山動物園からブラッサグェン4頭がやって来ました。大森山動物園では初めての展示です。その美しい姿から世界で最も美しいサルの一つといわれています。とはいっても、日本では白い髭と赤い頭巾のような額の毛が水戸黄門のご隠居様に似ていて人気を集めそうです。



### ツキノワグマ

ルビーに若い旦那さんのコゴミがやってきました。北秋田市阿仁の「くまくま園」出身です。担当日く、少し不器用そうです。早く大森山の環境に慣れてルビーと仲良くなつてね。

飼育動物数		2017年6月末現在
哺乳類	52種	382点
鳥類	27種	150点
爬虫類	13種	31点
両生類	2種	4点
魚類	3種	61点
無脊椎	1種	23点
合計	98種	651点

## 訃報 忘れないよ...



### ホンドギツネ「アズミ」

2003年に幼い状態で保護されました。まだ離乳していませんでした。動物病院で世話をしました。展示場デビューした後は、獣医師が近くを通るとうれしがる等とても人なつっこいギツネでした。



### ニホンコウノトリ「タイサ」

タイサは2003年に天王寺動物公園からやって来ました。2004年には上嘴を、2007年には下嘴を骨折しましたが、ハンディキャップをものともせず頑張りました。歯医者さんと一緒にタイサの嘴を作ってあげた実話はボランティアガイド「たいようの会」が紙芝居にしてくれています。

この他、ノドジロオマキザル、ミーアキャット、ワシミミズク、アカカンガルー等が死亡しています。



# 飼育レポート

## 新しくコツメカワウソが仲間入り

飼育展示担当 櫻庭 美千代

今年から新しくコツメカワウソ2頭(わらび3歳メス、キトラ3歳オス)が仲間入りしました。

3月に札幌市円山動物園から来園したわらびは、外で過ごすのが初めてでしたが、2カ月近くかけて、展示場のプールに入るようになりました。今ではだいぶ慣れ、展示場を走ったり泳いだりする姿が来園者の目を引いています。さらに機嫌が良いとアクリル越しの来園者に積極的に近寄るなど好奇心旺盛なおてんばタイプです。



わらび

6月に鹿児島市平川動物公園から来園したキトラは、見ているとなぜか仰向けスタイルになってしまう少し変わったコというイメージがあります。こちらも室内の環境に少しずつ慣れ、人の目の前では絶対に食べなかった餌を食べるようになりました。はじめは怖かったザリガニも、最近では顔を挟まれながら格闘していますが、バリバリと音を立てワイルドに食べます。こんな個性豊か可愛嬌たっぷり2頭にぜひ会いに来てください。



キトラ

## スバルバルライチョウの羽の色

飼育展示担当 川本 朋代



冬羽の「白」

現在、大森山動物園ではスバルバルライチョウを2羽飼育していますが、冬羽と夏羽両方の姿のライチョウを見ることができます。スバルバルライチョウは、雪が積もる冬は天敵が見つからないよう雪にカモフラージュした白い羽になり、気温が上がって雪が溶ける夏には山肌似た茶色い羽になります。

「どうして2羽の羽の色が違うのですか?」とよく聞かれますが、その秘密は展示場の照明にあります。スバルバルライ

チョウの主な生息地であるスバルバル諸島では、夏は太陽が夜になってほとんど沈まない白夜となるため、生息地の夏の日の長さに見せて展示場の明かりをほぼ一日付けた状態にすると、ライチョウは「今は夏だ」と判断して羽が茶色になります。逆に照明が付いている時間が8~11時間だと、冬と認識して羽が白になります。

このように2羽の展示場の照明時間を変えることで別の季節の羽の色を見ることが出来るのです。是非、それぞれの違いを見に来てください。



夏羽の「茶」

## プレーリードッグ ~苦節16年、初めて繁殖成功~

飼育展示担当 堀籠 麻子



赤ちゃん(3月31日)

当園でのプレーリードッグの飼育は2001年からふれあいコーナーで始まりました。

プレーリードッグの発情は年に1シーズンで冬のみです。発情が来ると気が荒くなり、妊娠出産すると人影や物音に非常に神経質になったり育児放棄したりと、プレーリードッグの繁殖は何かと難しいと言われてきました。

昨年までの15年間、なかなか繁殖することができず、2016年4月に担当になったときは正直かなりのプレッシャーを感じました。これまで繁殖に至っていないということは今までの飼育方法を見直す必要があると考え、繁殖経験豊富な他園に相談し、エサや体重、発情のサインなど細部にわたって気をつけて飼育するようになりました。

2017年2月、発情が来たであろう週に相性を見ながら何頭か

のオスと同居させたところなんと「ジャイ」(オス)と「もっと」(メス)が交尾したのです。そこからはトントンと事は進み、あれよあれよという間に3月13日に出産し育児がスタート。もちろん、育児放棄しないように細心の注意を払いつつの飼育はしていましたが、私たちの心配をよそにすくすくと6頭の子が育ってくれました。巣箱からモンモンと這い出してきた姿を見たときは本当にホッと、やっと安心して寝られると思ったものです。

まだまだ大人よりは小さな体の仔達ですが存在感は大人よりも抜群で、今後も担当として賑やかな家族作りに協力していきたいと思っています。今ではオス7頭、メス2頭、仔6頭の計15頭の大家族になったプレーリードッグたちに是非会いに来てください。



授乳の様子(4月25日)

## ミーアキャットの繁殖

飼育展示担当 佐々木 祐紀



生後26日の赤ちゃん(8月15日)

7月19日にミーアキャットが出産しました。自然界でのミーアキャットの繁殖は主に群れの上位のメスのみが出産し、他のメスは手助けとして働く「ヘルパー」という役

割に回るようですが、動物園ではなかなか同じようにはいかないようです。これまでも出産はしていたのですが、親が面倒をみなかったり、他の個体が邪魔をしたりで仔が成長することはありませんでした。

そんなこともあり、今回は妊娠が確認されたメスをあらかじめ群と分けて出産に臨みました。仔は全部で6頭、1頭は既に亡くなっていました。母親は意外に落ち着いていて、仔をお腹に抱え込む様にして順調の様に見えました。しかし、残念ながら数日後、4頭の子は下に敷いてあった土を誤飲したようで亡くなってしまいました。残りの1頭は現在も元気に成長中で、親子で皆さんに見ていただくのは徐々に7年ぶりのことです。このまま無事に成長してほしいと思います。



親子仲良く(8月30日)

## 動物病院から

## 3度目の新人時代

獣医師 長谷川 麻梨子

今年の5月から、大森山動物園に配属になりました。採用以来2回目の異動ということで、久しぶりに新人生活を送っています。

以前の職場とは全く異なる仕事で気力と体力を必要とする日々です。また、夏は紫外線と虫との格闘もあります。初めは動物舎の位置がわからず、園内マップとにらめっこしながら歩いたのですが、ようやく迷うことなく園内を移動できるようになりました。

さて、わたしは獣医師免許を持った飼育員ですが、動物の診察・治療といった臨床経験がありませんでした。ここにきて動物の命に対して責任がある臨床の世界に足を踏み入れることになり緊張しました。

しかし、一般的な臨床獣医師と異なり、「病気になった動物を治療する」ことより、「病気にならないよう健康管理・衛生管理をする」ことが動物園の獣医師が果たす役割であると教わりました。獣医師としてはもちろんですが、飼育員として毎日動物を観察し、変化に気づくことが出来る「目」を鍛えることが最優先事項だと思いました。



初めてのキリンの採血



# イベントレポート

Event Report



## 飼育の日

4月19日(水)～4月23日(日)

日本動物園水族館協会で、動物園や水族館の役割を理解してもらう目的で4月19日を「飼育の日」としています。大森山動物園では、動物の餌を作っている調理室や野菜等を保存する大型冷蔵庫を来園者に公開した



キーパーストーク



調理室見学

ほか、ゾウ・キリン舎や猛獣舎の裏側探検を実施しました。また、「キーパーストーク」として獣医師による鳥インフルエンザ発生時の状況説明やNHKの番組で紹介されたキリン飼育員によるトークイベントを開催しました。

## 国際教養大学(AIU) モニターツアー

6月18日(日)



園内見学

などを公開ディスカッションしました。

留学生からは、外国人向けの情報発信や子どもだけでなくいろいろな世代をターゲットにしたPRやプログラムが必要では、などの意見が出されました。



公開ディスカッション

## 春の動物ふれあいフェスティバル

6月4日(日)

今年の春の動物ふれあいフェスティバルは、雨天のため恒例の「どうぶつパレード」が残念ながら中止となりました。代わりに鳥との記念撮影会を行い、来園者はアカコングウインコやニシアメリカオコノハズクとの記念撮影を楽しみました。

また、資料館で行われた「動物ふれあいクイズ大会」ではミルヴェンジャーレッドやクイズに関する動物も登場し、〇×クイズで盛り上がりました。問題は簡単なものからマニアックなものまで出題され、大人も子どもも一緒に楽しんでいました。



## スタックスの共同栽培

5月16日(火)～7月18日(火)



スタックスの収穫

今年も地域の学校と協力しスタックスの栽培・収穫を行いました。今回は浜田小学校と栗田支援学校の3年生児童18名が参加し、堆肥をすき5月に種を蒔きました。

2ヵ月後の7月18日には、2校の児童たちが協力してスタックスを収穫し、一人ずつゾウの花子へプレゼントしました。みんな最後まで頑張って、満面の笑みで無事作業を終了することができました。また来年もご協力をお願いします。



ゾウへの給餌体験

## 第40回親と子のふれあい写生大会

7月22日(土)、23日(日)

今年で記念すべき40回目となった写生大会は、7月22日(土)、23日(日)に行われ、秋田公立美術大学との連携により開会式で大谷准教授からアドバイスをいただいたり、同大学生からも協力いただきました。

大会は残念ながら豪雨での開催となりましたが、雨にも負けず246点の力作を提出いただきました。雨の中、がんばって絵を描いてくださったみなさん、ありがとうございます。また、8月20日(日)には、市長や名誉園長出席のもと表彰式を行い、大勢の受賞者ご家族においでいただきました。



開会式の様子



雨の中での写生風景



秋田市長賞  
「つよそうなたてがみ」  
神坂 春磨さん



秋田市議会議長賞  
「太陽をみているクジャク」  
鈴木 渚さん



秋田市教育長賞  
「まぶしい夏の朝」  
新目 晃子さん

## 第43回サマースクール

7月27日(木)、29日(土)

28組49名が参加したサマースクールは、各日10のグループに分かれ、午前中は飼育体験で汗を流し、午後にはアニマルすごろくゲーム作りに挑戦しました。

今年も暑い中、小学1年生から60歳代までの参加者が貴重な体験をしました。すごろくゲーム作りは、午前中に体験した動物の生態や餌等を題材に参加者同士が相談し合っ、見事完成させました。短い時間でしたが、皆さん、楽しく笑顔で体験されていたのがとても印象的でした。



飼育体験



アニマルすごろくゲーム作り

## 夜の動物園

8月11日(金・祝)～15日(火)



ミニコンサート



ミルヴェンジャー7ショー

今年も5日間の開催となった夜の動物園は、4日間は天候に恵まれ昨年より2千人多い1万3千人以上のかたにご来園いただきました。

今回は大森山動物園応援会主催のミニコンサートを11日と15日に行い、ジャズやスチールパンの演奏に大いに盛り上がりました。期間中は、アカコングウインコやシロフクロウ、ポニーなどが来園者を出迎え、「チンパンジーの夕涼み会」や「ミルヴェンジャー7ショー」

などの日替わりイベントを行いたくさんのお客様に楽しんでいただきました。また、11日には毎年動物園に物品を寄贈いただいている電洋社様に感謝状を贈りました。



電洋社様へ感謝状を贈呈

## さよなら感謝祭

2017年11月26日(日)

通常開園最後の日曜日(11月26日)に、動物の霊靈とおお客様への感謝の気持ちを込めて、「さよなら感謝祭」を開催します。当日は、通常入園料大人720円のところ520円で入園できます。(他の割引との併用はできません。)

今後のイベント

## 雪の動物園

2018年1月6日(土)～2月25日(日)の土日祝日のみ開園

冬景色となった動物園とその中で過ごす動物たちをご覧ください。





# 飼育日誌



1/1	レッサーパンダ	小百合♀ リンゴの誘導で体重計測実施。2.44kg (前回比 (12/19) + 640g)
1/3	チンパンジー	ジェーン♀ 風邪薬投与。コタロウ♂ くしゃみ確認。
1/4	プレーリードッグ	犬のような鳴き声確認。
1/5	プレーリードッグ	全個体体重測定実施。
1/6	ライオン	トモ♀ 発情の兆候あり。
1/7	ノジロオマキザル	パリス♀ 死亡。
1/10	アフリカゾウ	だいすけ♂ 糞量少なくなった。ペレット増量。 エリマキツネザル 残餌多い。交尾確認。 フンボルトペンギン 産卵確認。
1/11	アミメキリン	ヤマモモ給餌開始。
	トナカイ	元気♂ サクラ♀(親)を追い回す行動確認。
	ミニブタ	トン平♂ 朝に「てんかん」発作あり。
1/13		動物病院入院棟の清掃・消毒(鳥インフルエンザ関係)。
1/14	アミメキリン	リンリン♀ 血清銅の数値改善(採血結果)。
	トナカイ	ルドルフ♂ 本日両角落角。 元気♂ 非常に攻撃的になってきた。
1/16	ノジロオマキザル	颯♂ 朝1頭だけ床面におり、清掃時も群れと移動せず室内にいたままだった。
1/17	アフリカゾウ	新人ゾウ担当の本格的なトレーニング開始。
1/19	シンリンオオカミ	展示場で交尾確認。
1/21	タンチョウ	つるべえ♂ 行動やや回復。
1/23	ニホンイヌワシ	西目♀ 15時45分産卵(1卵目)を確認する。
1/24	ニホンイヌワシ	風斗♂×西目♀ 第1卵目回収し孵卵器へ入卵。 オオバタン お母さん♀ 産卵、止まり木の下に落ちて割れていた。
1/30	ワタボウシタマリン	交尾確認。
2/1	チンパンジー	全頭に駆虫薬(メベンダゾール)投与(3日目)。
2/5	ライオン	ロアー♂×トモ♀同居。交尾確認。
2/6	アミメキリン	カンタ♂ リンリン♀を追尾。
	レッサーパンダ	ケンシン♂×ゆり♀同居。ゆりの発情が弱い。
2/8	タンチョウ	つるべえ♂ 強制給餌・治療(抗生剤)、調子が下降気味。
	プレーリードッグ	繁殖同居しているため寝室変更。同居5回目。交尾確認。
2/11	ポニー	アルファー♀ 体重測定時、何度か滑って横転。歩様や脚上げは変化無し。

2/16	ライオン	ロアー♂×トモ♀同居。トラのヒロシ♂を展示場に出し交互に相性確認実施。
2/19	ラマ	アンズ♀ 園内散歩。
2/21	アフリカゾウ	餌用の稲藁給餌始める。
2/22	アカカンガルー	トマコ♀の子、性別判明♂。
2/25	ニホンコウトリ	ヒデタダ♂ 両翼角から出血あり。
2/27	コモンマーモセット	もも♀ 出産近く体重増加目立つ。難産防止のため煮甘藷給餌量減らす。
3/5	アムールトラ	カサンドラ♀ 発情兆候あり。
3/7	ワオキツネザル	2頭出産。
3/12	アカカンガルー	トニオ♂ 目の検査。 リゾット♂ 尾の腫れあり。
3/13	スバルバルライチョウ	1羽体重709g。
3/19	コツメカワウソ	わらび♀ 新しい物に対する興味が大きい。
3/20	ヨーロッパフラミンゴ	ペア交尾確認。
3/29	プレーリードッグ	親が巣を離れる時間が増えてきた。
4/3	ポニー	アルファー♀ 元気消失、日中は食欲減退。
4/10	カリフォルニアアシカ	アイラ♀のマヤ♂に対する威嚇行動がいつもに比べると多くなってきている。
4/12	ニホンイヌワシ	雛29日齢 黒い羽が出てきている。
4/15	ホオアカキ	交尾確認。
4/19	ワタボウシタマリン	双子出産。
4/26	アミメキリン	リンリン♀ 右後肢内蹄削蹄。
5/5	サル山	無料餌やり体験実施。
5/6	チンパンジー	ボンタ♂ お誕生会開催。
5/8	インドクジャク	求愛ディスプレイ盛ん。
5/18	シロフクロウ	シロ♂×モコ♀ 1羽目ふ化確認。
5/23	ラマ	オス同士の闘争あり。アンズ♀ 園内散歩。
5/24	ゼニタナゴ保全池	稚魚約150尾確認。
5/28	フタコブラクダ	検便、線虫卵あり。
6/1	ニホンリス	夏毛が多くなってきている。
6/2	カリフォルニアアシカ	交尾行動確認。アイラ♀ 右前鰭付け根・腰等裂傷。
6/12	プレーリードッグ	子 骨折個体レントゲン撮影、マイクロチップ挿入。
6/14	ワオキツネザル	1頭出産、人工保育開始。
7/2	コツメカワウソ	キトラ♂ 仕切りフェンス内に挟まる。怪我等なし。
7/4	アミメキリン	カンタ♂ 追尾行動。
7/8	スバルバルライチョウ	白♂ 換羽進む。瀑♂ 爪切り実施。
7/10	チンパンジー	ポカリスエット飲ませる。
7/14	ブラッサゲェン	小競り合いあり。
7/22	アフリカゾウ	だいすけ♂ 体調不良につき経過観察。

## お客さまの声

3/18 動物園にはひんぱんに来ています。将来は飼育員という仕事も興味があるので、仕事を近くで見ることができて勉強になります。また来たいと思います。

3/20 ゾウの訓練に感動、何回も来園しているけど初めて見た!! 足を台にあげて、いろいろ異物としているのを途中から見たが、何て声かけて台に足をあげさせるのか? ネットで「ゾウ」を開いた時にそういうのが詳しく出てきたらいいネ! エサやりは何時からとか~。

3/25 毎回ちがうイベントがあるとリピーターになります。楽しいイベントを期待しています。

4/1 知人にすすめられ初めて家族と訪れました。動物がとても近くに感じられ、家族共々癒されました。動物の説明も丁寧で愛情がこもっており、勉強にもなりました。

5/2 自分が子どものころとは雰囲気が変わった気がします。手描きボードや子供たちの絵など親しみやすかったです。

5/3 飼育員の方がエサをあげる時、人がいる方にエサをまいてくれて動物をより身近で見ることが出来ました。

6/16 ツイッターアカウントがあるのをもっと知ってもらった方が良かった。

7/11 動物園行きのバスを美大の生徒に頼んでラッピングバスにすれば楽しいと思います。

7/26 子どもが動物に興味を持ってくれて、同じ物と一緒に見て学べる機会をいただき感謝しています。

## かたばた通信

秋田に来て20年、初めて1週間のお休みをいただき、秋田市との交流合意都市提携25周年を記念した訪問団に参加し、7月下旬にアラスカのキナイ半島郡に行ってきました。北米最高峰のデナリや氷河等の雄大な自然に感動し、車窓からは海面からラッコが顔を出していたり、岩場にいるドールシープ(ドールビッグホーン)、林の中の若いムース(ヘラジカ)を幸運にも見る事ができました。訪問時、アラスカは日がなかなか沈まない季節で、キングサーモン釣りでも賑わっていました。

今後、この提携を活かして動物の交流ができたらと思いました。(三浦)

写真はアラスカ野生動物保護センターで飼育されているムース(ヘラジカ)

